

岡山市逃げ遅れゼロを目指す防災戦略
～みんなの命をつなぐプロジェクト～
千種学区要支援者避難訓練について

令和4年2月1日（火）
第6回個別避難計画研究部会

岡山市危機管理室



1 千種学区について



- 岡山市東区に位置
- 世帯数 1 1 6 世帯（弓削町内会）
- 人口 2 4 8 人（※R3、3月時点）



※平成30年7月豪雨時の浸水状況

- <災害リスクの状況>
- 1 級河川吉井川の流域に位置し、四方を山に囲まれた地理的環境
 - 洪水浸水想定
2～5m、5m以上
 - 土砂災害警戒区域
5 8 か所

2 訓練の目的

- 作成した個別避難計画に基づいた避難訓練を行い、計画の実効性の検証を行う。
- 地域内の福祉避難所への直接避難を想定した訓練を実施し、福祉避難所の効率的な活用について検討を行う。

3 個別避難計画の作成状況

個別避難計画作成件数：2 2 件（※）

（※）千種学区では、要支援者名簿掲載者以外に、地域で独自に把握した方についても、計画を作成

4 避難訓練の概要

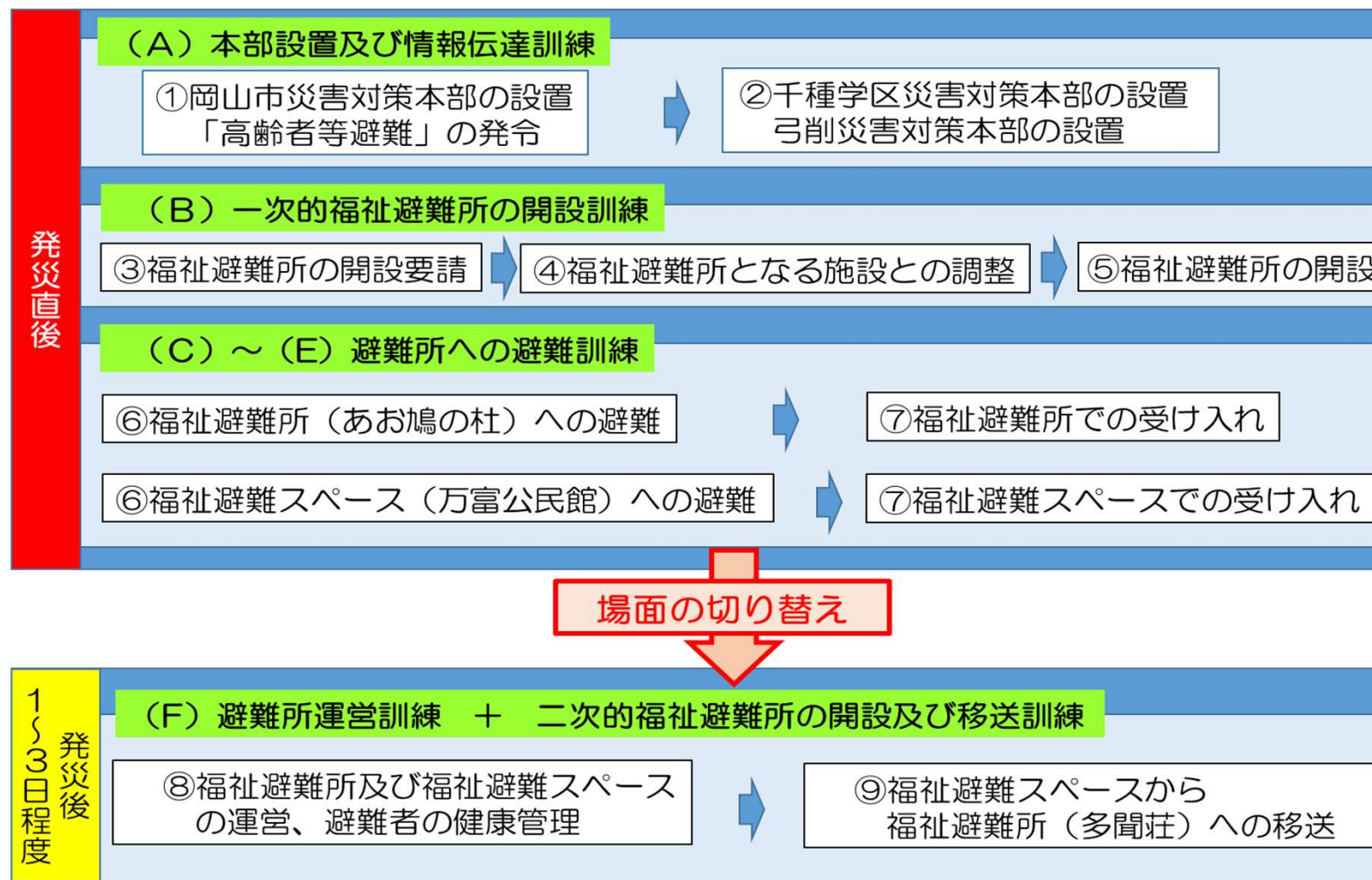
- 実施日時 令和 3 年 1 1 月 2 7 日（土）9：00～12：00
- 対象者 個別避難計画作成者のうち 1 3 名（3 名が福祉避難所へ直接避難）
※支援者となる方と一緒に車で避難を行う。
- 実施場所 岡山市立万富公民館、弓削コミュニティハウス、特別養護老人ホーム「あお鳩の杜」、特別養護老人ホーム「多聞荘」
- 参加機関 岡山市危機管理室、岡山市保健福祉企画総務課、東区役所、東区瀬戸支所、東区保健センター、岡山市消防団第 4 方面隊、千種学区聯合町内会、弓削町内会、民生委員、愛育委員、栄養委員、特別養護老人ホーム「あお鳩の杜」、特別養護老人ホーム「多聞荘」



千種学区要支援者避難訓練の概要②

訓練想定と流れ

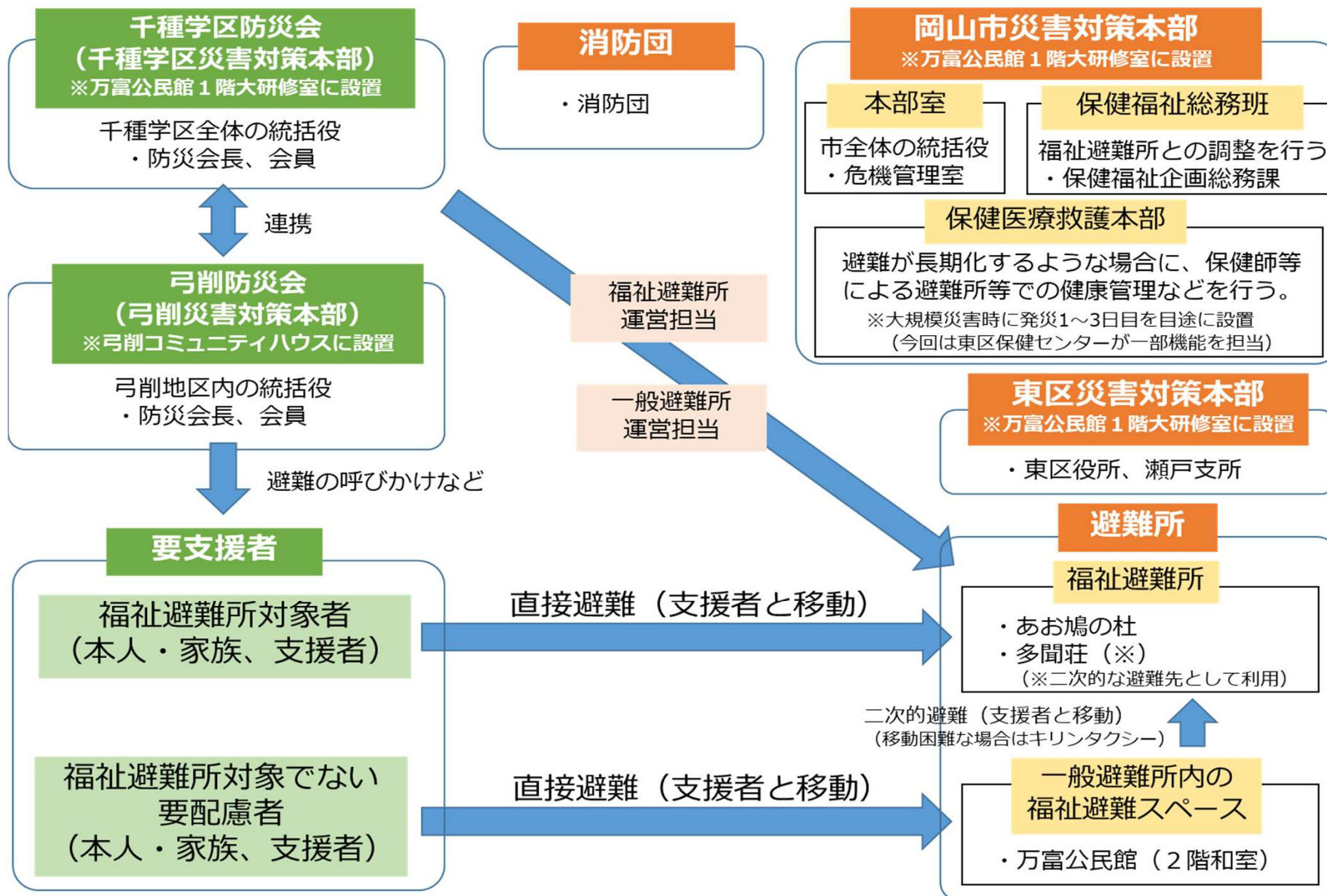
令和3年11月27日（土）、午前9時00分、大型台風の接近により、前日から降り続いた大雨の影響で土砂災害の危険があるため、岡山市は、千種学区内に「高齢者等避難」を発令した。





千種学区要支援者避難訓練の概要③

関係者の動き





千種学区要支援者避難訓練の様子①



各本部の設置状況
(万富公民館)



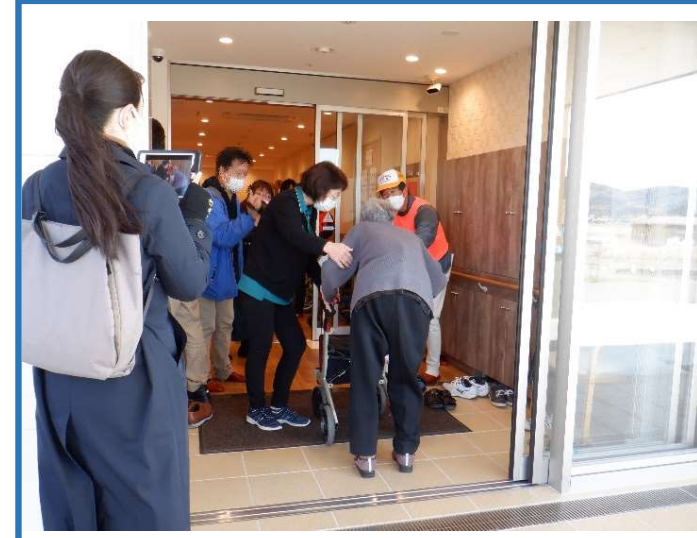
弓削町内会の本部設置状況
(弓削コミュニティハウス)



避難の声かけ
(弓削地区内)



車での避難誘導
(福祉避難所①)



福祉避難所での受付
(福祉避難所①)



千種学区要支援者避難訓練の様子②



福祉避難所での対応
(福祉避難所①)



福祉避難所での対応
(福祉避難所①)



一般避難所での受付
(万富公民館)



一般避難所での対応
(万富公民館)



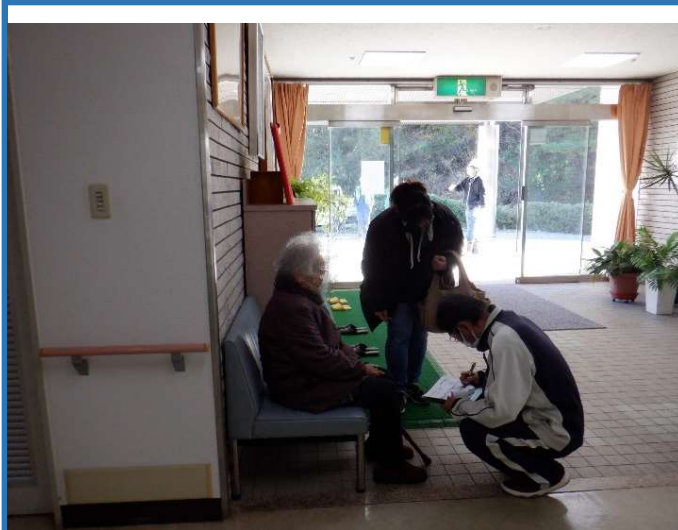
一般避難所での健康観察
(万富公民館)



千種学区要支援者避難訓練の様子③



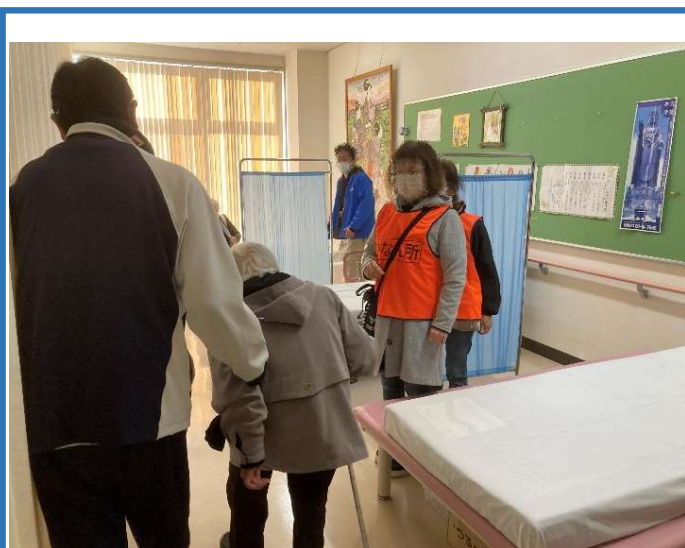
福祉避難所への移送
(万富公民館)



福祉避難所での受付
(福祉避難所②)



福祉避難所の様子
(福祉避難所②)



福祉避難所での対応
(福祉避難所②)



要支援者の意識の変化 (参加者13人へのアンケート結果より)

- 避難の仕方がわかって安心した：10人
- 避難所について
安心して過ごせると思った：10人
- 今後の避難訓練について
参加する：10人

- ▷ 避難行動を体験することにより、災害時の避難に対する不安の軽減につながった。
- ▷ 避難に備えた事前準備について考えていただく機会となった。

福祉避難所について (福祉避難所からの意見より)

- 市が備蓄している簡易ベッドを活用したことで、事前に組立を体験でき、要支援者の可否についても確認ができた。
- 受け入れにあたっては、事前に避難者の情報が必要であると感じた。
- 避難所運営に地域住民の協力がありよかったが、体制や事前の情報共有など調整が必要と感じた。

- ▷ 福祉避難所への物資の備蓄について検討が必要。
- ▷ 施設側との事前の情報共有のツールとして個別避難計の活用方法の検討が必要。
- ▷ 福祉避難所の運営体制や地域との連携について検討が必要。

地域の体制について

- 計画作成における個別訪問や調整会議で、関係者間で避難方法などについて情報共有ができていたため、スムーズな避難につながった。
- 支援者の高齢化や要支援者の体調の変化に対応できるよう、支援体制の充実、強化が必要。

- ▷ 計画作成の段階での要支援者と支援者との関係づくりや情報共有が重要である。
- ▷ 支援者の確保に向けた啓発を行うとともに、福祉専門職等の協力体制の構築が必要。